

葛藤から自分の考えを広げ深める放送学習

北海道札幌市立真駒内公園小学校 教諭 小森 量平

小学校6年 道徳 ココロ部！

番組の特徴

『ココロ部！』は子どもたちに、考える力とコミュニケーション力、‘道徳力’を楽しんで身につける番組である。番組内で起こる道徳的葛藤場面に遭った時の対応について、じっくり話し合うことで、自分の生き方について考えていくことができる。

研究の概要

番組の葛藤場面を強く取り上げることで、子どもたちが道徳的価値についての考えを深め広げる取組を行った。様々な視点から考えたり、多様な価値観に触れたりしたことで、多角的・多面的な見方ができるようになってきた。加えて、よりよい行動を求めていこうとする姿が見られた。他教科での話し合い活動でも、他者の考えを尊重しながら進めることができるようになった。

授業デザイン

単元：役割の自覚と責任 (4-(3))
めあて：身近な集団に積極的に参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす

導入



番組視聴

第2回 最後のリレー

考えをもつ

自分の立場を明らかにし、もう一方の立場についても考える。



考えを交流する

最後の大会に出られないのは絶対悔しい

キャプテンとして他の二人の気持ちも大切にすべき

親友を出さずに優勝できて喜ばない

キャプテンは全体のことを一番に考えなくてはいけない

考えを見つめ直す

言わない方がいいかと思っていたけどやっぱりキャプテンとして言った方がいいかと思った。

ぼくは言わないと思っていたけど、キャプテンとしてが出てきて難しくなってきた。

番組や関連動画クリップの活用意図

全員が課題をつかめる

登場人物の表情からの視覚情報や、番組内での課題整理の場面が有効で、全員が課題を理解し、一緒に考えていくための土台ができる。

葛藤が生まれ、考えたくなる

番組の葛藤場面では、どちらかの考えに偏らないように様々な視点が加えられる。心が揺さぶられることで自然と子どもどうしの考えの交流が始まる。多様な価値観に触れることで、考えを深め広げていくことができる。

授業デザインにかかわる教師の工夫

自分の考えをもつ時間の保障

ワークシートに「自分の考え」を記入するとともに、「自分の考えと違う立場」についても考えるようにするため、一人ひとりが十分に考えるための時間を保障する。

多様な価値観に触れる交流のさせ方

ネームプレートを活用して、各自の立場を明確にする。そして、「自分と同じ考えの人」「違う考えの人」「異性」という視点を設け交流することで、多様な価値観に触れることができる。

自分の考えを見つめ直す時間の保障

学習の終末段階で、様々な考えと自分の考えを比較しながら、最終的にどう考えるのかという場を設定することで、児童は自分の考えを深めることができる。

生き生きと学ぶ子どもの姿

子どもの自己評価から

- 最初は「友情」を大事にする方だったけど難しかった。
- 気持ちは変わらないけど、チームメイトの気持ちもすごく大事だと思いました。

評価シートから（特に顕著に肯定的な意見が見られた項目）

- 『ココロ部！』を使った学習は楽しかったか。」
- 『ココロ部！』を見て、共感したり反対したり心が動いたか。
- 学習を今後の生活に役立てようという気持ちになったか。

同僚の評価

- 全員が集中して参加していた。
- 自然と話したくなる番組の作られ方が素晴らしい。

実践を終えて〈行動宣言〉

番組を活用したことで、全員が集中して課題に向かい、自然と交流する姿が見られた。また、ある価値項目について考えるとき、それと対立する価値を提示することで、どちらの価値にも深く考えることができることが実感できた。今後は、子どもたちの考えをどのように評価していくか、その後の生活につなげていく方法について実践を積み重ねながら探っていきたい。